

# 老婆心ながら

～校長からの一言～

## これからの学校は、どうあるべきなのか。(3)

～ 全校三者面談と通知表の見直しを図っています。 ～

昨年度末に「これからの学校は、どうあるべきか。」というテーマで、学校のユニバーサルデザイン化、学校行事の持ち方について、2回にわたり私の持論を書かせていただきましたが、今回は、その第3段になります。(過去の「老婆心ながら」は、ホームページにアップしました。)

今回のテーマは、「三者面談」と「通知表」です。

「三者面談は長期休業中前に実施」これが学校の定番であり、本校も昨年度までは、それに従い7月と12月に全校三者面談を実施していました。しかし、それは3学期制に適合したものであって、現行の2学期制に適合したものなのではないでしょうか。確かに、長期休業中の生活についての注意事項を保護者の方にも一緒に聞いてもらうという意味においては意味のないものではありませんが、2学期制の場合では学期末でないため成績(評定)も出されておらず、通り一遍の話になってしまいがちなのです。

そこで、本校では、コロナに関係なく年度当初から全校三者面談は夏休み前には行わず前期の通知表が渡された後に実施することとしていました。(今年度は、一度も学級担任と顔を合わせることができなかった保護者もいるため、夏休み前にも実施しますが・・・)通知表を見ながら親子で前期を振り返り、その結果を持って三者面談に臨んでもらうことで、学校と家庭と一緒に子どものことを考えていくという狙いがあります。子育ては、あくまでも家庭が「主」であるべきだと私は思います。ぜひ、三者面談を通知表を見て感じたことや話し合った家庭での方策などを学級担任に伝える場、そして学級担任と一緒に考えていく場にしてほしいと思っています。

また、それに伴い、三者面談時に学校での生活を様子をお話してできるようになるため、前期通知表には学級担任からの所見を無くさせていただきます。

今まで、学校では、通知表の作成に大きな労力をかけており、その作業を行うために授業をカットして期末事務処理日を設けるなど、日々の授業を疎かにしてしまう傾向もありました。実は、昨年度まで、夏休み明けすぐに前期期末テストを実施していたことも通知表を作成する時間を確保するための手段で、保護者の皆様からも、もう少し遅らせられないかという声をいただいております。また、教師側としても文字として将来まで残ってしまう通知表の所見には課題等は記入しにくいなどの課題もあったのです。そのような理由から、今回は、思い切ってこのような決断をさせていただきました。これにより、特に今年度に関しては、前期期末テストまでの授業時数の問題も解決されることになると思われます。

学校には、今、柔軟性と決断力が求められていると考えます。ご理解の上、ご協力ください。